

平成22年3月 第1四半期決算短信

平成21年8月7日

上場会社名 マナック株式会社

上場取引所 東

コード番号 4364 URL <http://www.manac-inc.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 杉之原 祥二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長

(氏名) 岡本 道俊

TEL 084-954-3330

四半期報告書提出予定日 平成21年8月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	1,892	—	△57	—	△33	—	△13	—
21年3月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△1.63	—
21年3月期第1四半期	—	—

(注) 当第1四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期の数値及びこれに係る対前年同四半期増減率については、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	11,718	8,295	70.8	1,032.40
21年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 8,295百万円 21年3月期 一百万円

(注) 当第1四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、前期の数値については、記載していません。

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	5.00	—	2.50	7.50
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	2.50	—	5.00	7.50

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	9,000	—	60	—	110	—	50	—	6.22

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

現時点での第2四半期連結累計期間の業績予想開示は、投資判断に誤解を与えてしまう恐れがありますので、差し控えていただき、今後第2四半期の連結業績見通しが立ち次第、速やかに開示する予定であります。

なお、上記の業績予想に関する事項は、本決算短信4ページ「【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間における経済状況は、昨年の夏以降、米国発のサプライム問題が表面化、これを引き金に金融機関の信用不安による信用収縮が顕在化した結果、個人消費は大きく落ち込むこととなり、堅調であった自動車産業や家電製品の販売が急減。製鉄・化学産業等を中心に、全産業が在庫の調整局面に入り、景気は厳しい状況となっています。

欧米や中国並びにわが国も財政出動による景気刺激策を積極的に行っておりますが、期待される効果は今秋以降になるものと思われ、現状は厳しい経済環境が続くものと思われ。

化学業界では、世界経済の停滞に伴い、生産調整や在庫調整が底をうったといわれているものの予想以上に深刻で、一時帰休や多能化研修等で雇用を維持しているものの、固定費を賄う生産活動が出来ず、加えて原油価格は反転局面となり、ナフサを中心に基礎原料価格は上昇基調であります。受注動向からして販売価格に転嫁できるような環境ではなく、収益環境は極めて厳しい状況であります。

このような環境のもとで、当社も最先端製品であるエレクトロニクス関連部品において、在庫・生産調整が想定外に長引き、4月以降も影響を大きく受けることとなり、出荷額は半減した状態が続き、経費の圧縮に努めたものの、比較的堅調であった医薬関連やスペシャリティケミカル関連でも、全体の固定費を賄うことができず、赤字の計上を余儀なくされております。

また、当社では平成21年4月1日に八幸通商株式会社の子会社を取得し、同社の100%子会社である南京八幸薬業科技有限公司と共に連結経営としております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の当グループの売上高は1,892百万円、利益面につきましては、営業損益は57百万円の損失、経常損益は33百万円の損失、四半期純損益は13百万円の損失となりました。

なお、当社は当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、前年同期比較は行っておりません。

事業の種類別セグメントの業績の概要は以下のとおりであります。

①ファインケミカル事業

ファインケミカル全体としては、昨年秋以降からの世界同時不況により、産業全体で生産調整等が続き、低調に推移しました。

機能性材料については、半導体、電子・精密機器等のハイテク分野において使用される電子材料は、各ユーザーでの在庫調整等から需要が低迷し、低調に推移しました。

医薬関連については、今回の不況に大きく左右されることなく、特に医薬中間体においては、順調に推移しました。

その結果、ファインケミカル事業として売上高は1,084百万円となりました。

②難燃剤事業

景気後退に伴う家電・IT産業の冷え込みに連動して樹脂業界も大規模な在庫調整、生産調整が実施され、主力製品であるプラスチック用難燃剤は、昨年秋以降と同様に低調に推移しました。その結果、売上高は458百万円となりました。

③ヘルスサポート事業

昨年に引続き、既存製品の拡販に取り組み、食品用途の需要については堅調に推移したものの、医薬用途の需要は横ばいに推移しました。その結果、売上高は348百万円となりました。

なお、当社は、当第1四半期連結会計期間より、事業の種類別セグメント情報を作成しておりますので、前年同期比較は行っておりません。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、11,718百万円となりました。そのうち流動資産は6,806百万円、固定資産は4,911百万円となりました。負債につきましては、3,422百万円となりました。そのうち流動負債は2,337百万円、固定負債1,084百万円となりました。純資産につきましては8,295百万円となり、自己資本比率は70.8%となりました。また、1株当たり純資産額は1,032円40銭となりました。

なお、当社グループは、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度末との対比の記載はしておりません。

(2) キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュフロー)

営業活動によるキャッシュフローは、10百万円の収入となりました。

これは、税金等調整前四半期純損益は赤字であったものの、減価償却費の計上やたな卸資産の減少によるものです。

(投資活動によるキャッシュフロー)

投資活動によるキャッシュフローは、189百万円の収入となりました。

これは主として、新規連結子会社株式の取得による収入によるものです。

(財務活動によるキャッシュフロー)

投資活動によるキャッシュフローは、54百万円の支出となりました。

これは主として、借入金の返済と配当金の支払によるものです。

(現金及び現金同等物の期末残高)

現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、2,022百万円となり、第1四半期連結会計期間期首残高より145百万円増加いたしました。

これは主として、新規連結子会社株式の取得による収入によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループは当連結会計年度より連結決算に移行しております。

通期の連結業績予想の見通しにつきましては、平成21年8月7日に発表いたしました「連結業績の見通しに関するお知らせ」をご覧ください。

なお、第2四半期連結累計期間の業績予想につきましては、現在連結子会社における販売状況等を集計中で、判明次第開示いたします。

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

当社は平成21年4月1日付で八幸通商株式会社を完全子会社としており、その100%子会社である南京八幸薬業科技有限公司とともに、当第1四半期連結会計期間より連結決算の範囲に含めております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間末
 (平成21年6月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	807,095
受取手形及び売掛金	2,441,479
有価証券	1,052,864
金銭の信託	300,000
商品及び製品	1,046,558
仕掛品	409,089
原材料及び貯蔵品	553,408
繰延税金資産	79,976
その他	118,108
貸倒引当金	△2,137
流動資産合計	6,806,445
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	1,233,498
機械装置及び運搬具(純額)	952,641
土地	1,093,295
建設仮勘定	70,763
その他(純額)	115,238
有形固定資産合計	3,465,437
無形固定資産	34,754
投資その他の資産	
投資有価証券	980,788
関係会社長期貸付金	112,500
繰延税金資産	134,914
その他	183,796
貸倒引当金	△600
投資その他の資産合計	1,411,399
固定資産合計	4,911,591
資産合計	11,718,036

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間末
(平成21年6月30日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	753,868
短期借入金	914,659
未払法人税等	23,601
賞与引当金	44,451
その他	601,083
流動負債合計	2,337,663
固定負債	
長期借入金	519,646
退職給付引当金	211,649
役員退職慰労引当金	55,329
負ののれん	179,852
その他	118,019
固定負債合計	1,084,496
負債合計	3,422,159
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,757,500
資本剰余金	1,947,850
利益剰余金	4,771,186
自己株式	△243,192
株主資本合計	8,233,343
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	73,678
為替換算調整勘定	△11,144
評価・換算差額等合計	62,533
純資産合計	8,295,877
負債純資産合計	11,718,036

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
売上高	1,892,726
売上原価	1,556,740
売上総利益	335,985
販売費及び一般管理費	393,632
営業損失(△)	△57,646
営業外収益	
受取利息	1,866
受取配当金	6,943
負ののれん償却額	9,465
受取ロイヤリティー	8,843
その他	7,281
営業外収益合計	34,400
営業外費用	
支払利息	5,411
デリバティブ評価損	2,307
その他	2,353
営業外費用合計	10,072
経常損失(△)	△33,318
特別利益	12,708
特別損失	3,220
税金等調整前四半期純損失(△)	△23,830
法人税、住民税及び事業税	14,987
法人税等調整額	△25,726
法人税等合計	△10,738
四半期純損失(△)	△13,091

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△23,830
減価償却費	120,990
負ののれん償却額	△9,465
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△9,100
賞与引当金の増減額(△は減少)	△41,561
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△3,543
貸倒引当金の増減額(△は減少)	528
受取利息及び受取配当金	△8,810
支払利息	5,411
有形固定資産除却損	1,972
売上債権の増減額(△は増加)	△3,392
たな卸資産の増減額(△は増加)	57,943
仕入債務の増減額(△は減少)	△59,400
その他	△347
小計	27,394
利息及び配当金の受取額	8,810
利息の支払額	△5,411
法人税等の支払額	△19,952
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,839
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△40,770
定期預金の払戻による収入	30,677
有形固定資産の取得による支出	△41,446
投資有価証券の取得による支出	△3,262
投資有価証券の売却による収入	16,999
子会社株式の取得による収入	225,440
貸付金の回収による収入	1,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	189,138
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	△78,824
長期借入れによる収入	100,000
長期借入金の返済による支出	△55,472
自己株式の取得による支出	△130
配当金の支払額	△20,089
財務活動によるキャッシュ・フロー	△54,516
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	145,461
現金及び現金同等物の期首残高	1,877,496
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,022,958

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

	ファインケミカル事業 (千円)	難燃剤事業 (千円)	ヘルスサポート事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,084,969	458,967	348,789	1,892,726	—	1,892,726
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	(—)	—
計	1,084,969	458,967	348,789	1,892,726	(—)	1,892,726
営業損失(△)	△4,129	△48,490	△5,027	△57,646	(—)	△57,646

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2. 各区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品
ファインケミカル事業	機能性材料及び医薬品とそれらの中間体
難燃剤事業	プラスチック用難燃剤
ヘルスサポート事業	人工透析液用原料

3. 当社グループは当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期数値の算出は行っておりません。

[所在地別セグメント情報]

当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。